

別表第1（第5条関係）

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	郷土史料館 管理運営費					
担 当 課 係 名	文化財 課		文化財 係		作成者	佐藤 人志
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち				総合計画の ページ
	基本計画	芸術文化活動の振興と文化財の保護				
	主要施策	文化財の保護と後継者の育成				100
予 算 費 目	一般 会計	10 款 教育費	5 項 社会教育費	9 目 郷土史料館費		
事 業 期 間	平成 年度 ~ 平成 年度		新規／継続の区分		継続	
性 質 区 分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理					
根 拠 法 令 等	仙北市田沢湖郷土史料館条例、仙北市田沢湖郷土史料館管理規則					
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務					
運 営 方 法	☐ 直 営 ☒ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助					

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	国民のため（特に市民、県民）
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	仙北市の文化財の収集保管を図り、市民の文化的資質の向上と、地方文化の進歩発展に資する。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	国登録文化財「クニマス標本」を始め、黒倉遺跡出土品、民俗資料等を展示、広く公開している。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	開館総時間数	目標	h	1,408	1,408	1,408	
			実績	h	1,408	1,408	1,408	
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
	成果指標	入館者数	目標	人	1,116	897	1,022	
			実績	人	1,116	897	1,022	
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				1,766	1,814	2,481	
	人 件 費 (B)		—		2,356	2,421	2,378	
	職 員 数		—		0.30	0.30	0.30	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				4,122	4,235	4,859	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源				4,122	4,235	4,859
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		2,928	3,008	3,451
市民1人当たりのコスト(円)		—		129	135	157		

【事務事業の今までの成果】

田沢湖町郷土史料館を仙北市で引き継いで運営している。年間約1千人の入館者数であるが、学校の研究・学習の場となり、小中学生の入館が多い。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	「クニマス標本」が国の登録文化財になったことから、多方面から注目されている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	同地区のホテル、旅館、飲食店、土産物店等の観光業者から存続の要望がある。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	A 現状のまま継続（実施）	開館に要する経費と効果を再検討する必要がある。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

現在の施設では、博物館としての機能が果たせない部分が多い。しかしながら、施設の整備を行っていくことも現段階では考えられない状況であり、現在の施設の検討を踏まえ「クニマス標本」展示コーナーの充実を図ったところである。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	利用は必ずしも多くなく、利用者増加のための対策が求められるところです。効率的な管理運営の確保とあわせて取り組む必要があると考えます。

一次評価診断図

